

第 37 回全国大学メンタルヘルス研究会を終えて

第 37 回全国大学メンタルヘルス研究会 大会長
九州大学キャンパスライフ・健康支援センター 一宮 厚

平成 27 年 12 月 10 日と 11 日に福岡市中央区で開催いたしました第 37 回全国大学メンタルヘルス研究会には、全国から 135 名の方々に御参加いただきました。

師走の 2 日間の開催で、会場が博多湾沿いの百道浜でしたので、玄界灘からの冬の北西風を恐れていました。生憎、雨は降りましたが、暖冬の御蔭で寒さはそれ程でもなく、主催者としてはほっとしました。

さて、今回の研究会では、テーマを「大学メンタルヘルスの課題 -来るべき発達支援と招かざる薬物の問題-」としました。今後、大学メンタルヘルスの課題になるであろうこと 2 つに焦点をあてるシンポジウムを設定しました。

直前に迫った障害者支援については、1 日目の午後に「発達および精神に障害のある大学生の支援」と題するシンポジウムを設定しました。発達障害と精神障害のある学生の支援の原則、大学生における具体的な問題点、そしてすでに支援を開始している大学の現状について講演をしていただきました。各シンポジストのお話は、障害のある人々の個別性に基づく多様で細やかな支援の必要性を改めて認識させられる内容でありました。大学も障害支援に力を注いでいくこととなりますが、これから障害のある学生を迎え、合理性という名の妥協点をもとめて様々な試行錯誤をしなければならない大変な時期を迎えると考えられます。

従来、保健管理施設では精神科医を中心として、適応障害やうつ状態などの学生や職員の支援をしてきましたが、障害支援の体制作りのなかで、一時的な精神的な障害に対しても、暖かく積極的な支援を実施する重要性について学内に発信していく機会にすべきであると考えます。本研究会においても、今後、会員が様々な情報を持ち寄って議論を重ね、我が国の大学における障害者支援の標準を決めていく役割を担うことであろうと思われま。

もうひとつ、現在はあって欲しくない、そして将来においても来てほしくない問題の代表である薬物乱用について、シンポジウム 2 「薬物依存・乱用の現状と精神医療」を 2 日目に設定しました。すでに大学においても密かに忍び込んで来ている恐れもある違

法薬物（危険薬物）使用などの現状と精神医療の役割について、大学では日頃見聞きしない触法の問題についても見識を広げたいと思い企画しました。麻薬取締の現場や精神科での治療など、日常の大学内での保健活動からは遠いところでの情報を知ることが出来ました。危険薬物の流通はほぼ制圧されているようなのでほっとしました。

一般演題は、12 演題も申し込みいただき、2 日目の午前中半日には入りきれませんでした。多彩な内容で、この研究会が成熟してきていることが実感される御発表でした。

今回の研究会の総会では、本研究会を発展させる形で全国大学メンタルヘルス学会を設立することが決定されました。今回が研究会としての最後との学術集会となりました。大学などの高等教育機関におけるメンタルヘルスの保持・増進に特化した目的を掲げる唯一の学術集会として、今後新たな発展をしていくことでしょう。来年度は、学会として初めての学術集会になりますが、東京農工大学が開催校となって東京で開催されます。より多くの会員の皆様が参集され、活発な議論のもと大学精神保健の領域の学術的知見がますます豊かになりますことを願っております。